



# 下水道公社だより



2016年秋季号（第57号）



## 『下水道まつり』を開催しました

9月4日(日)に大滝根水環境センター、9月11日(日)にあだたら清流センターにおいて「下水道まつり」を開催しました。大滝根水環境センターには900名、あだたら清流センターには1,250名と多くの皆様にご来場いただきました。ポスターコンクール表彰式、微生物観察や下水道施設見学等を通して、下水道の役割や下水道への関心を深めていただき、盛況のうちに無事終了することができました。

開催にあたりまして、ご協力をいただきました県、関係市及び関係団体の皆様に心より御礼申し上げます。



〈大滝根水環境センター〉



〈あだたら清流センター〉

## 『快適生活 下水道フォーラム 2016』を開催しました

10月9日(日)に御蔵入交流館（南会津町）において、“美しい水環境を未来まで”をテーマとして「快適生活 下水道フォーラム 2016」を開催し、1,200名の方々にご来場いただきました。南会津学生バンド（田島中学校、下郷中学校、田島高校の吹奏楽部）によるオープニングセレモニーに始まり、ミス日本「水の天使」須藤櫻子さんの開会宣言、松本理事長の主催者挨拶の後、共催の南会津町長 大宅宗吉様からご挨拶を頂戴しました。

続いて、「かわしま地区の自然を守る会」より、イトヨ沼（深沢沼）の水生物の観察、水環境保全活動について発表していただきました。

最後に、テレビやラジオで活躍し、国立大学法人東京海洋大学名誉博士であり客員准教授でもある“さかなクン”氏による「いっしょに学ぼう！美しい水環境とおさかなたち」と題しての記念講演が行われました。イラストを描きながら、魚たちが気持ち良く棲める川や海の水環境を守っていくことの大切さについて講演し、来場の皆様も“さかなクン”氏の話に大いに沸き、熱心に聞き入っていました。



〈記念講演〉

今回の「快適生活 下水道フォーラム 2016」は、初めて「第8回南会津新そばまつり」と同時開催として実施しましたが、たくさんの方々から下水道の役割などについて、関心を深めていただき、大盛況のうちに閉会することができました。

本フォーラムの開催にあたり、ご支援、ご協力いただきました南会津町及び関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



〈南会津学生バンド〉

## 平成28年度下水道排水設備工事責任技術者登録更新講習会日程

平成28年度下水道排水設備工事責任技術者登録更新講習会を、下記により開催します。下水道排水設備工事責任技術者登録の有効期間は5年間であるため、登録期間満了後も引き続き登録を受けるときは、技能・技術の維持及び最新技術の習得等を目的とする更新講習を受講しなければなりません。


### 平成28年度下水道排水設備工事責任技術者登録更新講習会の日時及び会場

年 月 日	会 場	対 象 地 区 (参考)
平成28年12月8日(木)	ビッグパレットふくしま	中通り方部の方
平成28年12月15日(木)	会津アピオ	会津方部の方
平成29年1月25日(水)	ウィル福島	中通り方部の方
平成29年2月1日(水)	鹿島農業環境改善センター	浜通り方部の方
平成29年2月8日(水)	ビッグパレットふくしま	中通り方部の方

## 普及啓発事業のご案内

当会社では、下水道事業に対してより一層理解を深めていただくことを目的として、下記普及啓発等事業を実施しております。詳細内容ならびに利用申込等につきましては、当会社へお問い合わせいただくかホームページをご覧ください。

### 〈市町村向け〉

事業名	内 容	利用例等
地域下水道まつり支援事業	県内市町村等が実施する、下水道の普及啓発を目的としたイベント活動に要する費用を助成する事業です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>下水道PRグッズの購入</li> <li>ポップコーン、綿菓子等の購入</li> </ul>
普及啓発活動に係る広報資材支援事業	地方公共団体及び学校教育機関、団体等が、福島県内で下水道の普及啓発を目的として行う活動で使用する広報資材を無償（送料は除く）で貸与又は提供する事業です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>リーフレットの配布</li> <li>パネルの展示</li> <li>DVD上映</li> </ul>
下水道災害発生時資材支援事業	県内の市町村等を対象に、下水道災害発生時に会社が備蓄保有している災害対応用資材等の貸し出しを行う事業です。※イベント展示用としての貸出も行います。	
水環境に関する活動助成事業	県内の営利法人でない団体が行う、下水道の普及促進や良好な水環境の保全に関する活動等に要する費用を助成する事業です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川の水質調査</li> <li>河川、池沼の生物</li> <li>汚泥調査</li> </ul>

### 〈学校教育機関向け〉

事業名	内 容	利用例等
夏休み親子自由研究 in 下水道	夏休み期間中の指定日（申込制）に流域下水処理場を開放し、下水道知識の普及啓発を図るために施設見学を行い、職員による実験・説明等を行う事業です。	H28年度は県北浄化センターにおいて、児童・保護者計20名で実施
下水道ふれあいバス助成事業	県内の学校教育機関等が対象施設の見学を実施する際に、移動に利用するバス等の借り上げ費用を助成する事業です。	対象施設のみ（全額助成） 対象施設及びその他施設（1/2助成）
げすいどう文庫助成事業	県内の学校教育機関を対象に、下水道のしくみや役割について記述のある児童図書の購入費用を助成する事業です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちの施設たんけん『水道・下水道』</li> <li>水ってなんだろう（全5巻）他</li> </ul>
出前講座	県内の学校教育機関を対象に、総合科目等の時間に職員を派遣して下水道に関する講義を行う事業です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>下水道のしくみについて説明</li> <li>児童全員によるパックテスト検査の実施</li> </ul>

## 下水道研究発表会を終えて

7月26日（火）に名古屋市で開催された下水道研究発表会において、「汚泥貯留槽における硫化水素発生要因調査」について発表しました。振り返ってみると、とても貴重な経験ができたと思っています。発表10分、質疑応答5分という短い時間の中で、いかに見やすくわかりやすい発表にできるか、パワーポイント資料を何度も試行錯誤し、発表練習を繰り返しました。立見が出るほど大勢の前で研究成果の集大成を発表するということもあり、とても緊張しましたが、いざ演壇に立ち自己紹介を終えると緊張も収まり、持ち時間内に発表を終えることができました。その後の質疑応答も無事に済ませ、最後の拍手を聞いた瞬間の安堵と達成感は今でも忘れることができません。



今回の研究は普段と違う傾向を示した一つのピーク値を疑問に思いその原因を探る研究でした。今後もこのようなデータを敏感に感じ取りながら調査研究を重ね、維持管理業務に反映させていきたいと思っています。

最後に、貴重な発表の機会を与えていただき本当にありがとうございました。

（県北浄化センター 主任主査 佐藤 元）

## 東北下水道公社連絡協議会を開催しました

東北の下水道公社等（青森、岩手、宮城、山形、福島）で、毎年各県で行っている本会議を今年度は福島県で開催しました。初日の会議は、下水道施設の運転管理技術や各種事業実施に関する課題など、公社運営に関わる様々な議題について、熱心に議論が行われました。また、2日目の現地視察では、県北浄化センターの仮設汚泥乾燥施設を見学し、一時保管している下水汚泥の減容化状況や減容化後の搬出状況などを見ていただき、福島県の復興が進んでいることを確認いただきました。

日 程：平成28年9月29日（木）～30日（金）

場 所：福島市内

参加者：25名（うち福島県13名）



## 「市町村職員の技術研修制度」のお知らせ

平成29年度市町村職員実務研修生を募集しております。

当公社の下水道技術者養成事業では、下水道事業に係る人材育成等の観点から、市町村職員の下水道に関する技術力向上を図るため、平成8年度からこれまでに、10市町から13名の市町村職員を実務研修生として受け入れております。

各自治体の下水道運営におかれましては、財源・職員の確保など、厳しい状況にあることと存じますが、研修生の派遣について御検討いただきたく、御案内申し上げます。

※詳しい内容は、11月9日付けで各自治体へ文書をメールにて送付させていただいております。

- 1 研修内容 下水道に係る設計・積算業務等
- 2 勤務地 当公社業務部計画設計課（福島市大町5番6号）
- 3 研修期間 平成29年4月～（3年以内） ※研修の期間はご相談に応じます。
- 4 要件 原則満31歳以下（平成29年4月1日現在）の技術職員  
※年齢、職種についてご相談に応じます。
- 5 給 与 当公社負担
- 6 募集期限 平成28年12月22日（木）
- 7 その他 技術研修制度について、説明を希望される場合には職員が直接お伺いします。



## 県中浄化センター所長通信

県中浄化センターは、福島県最初の流域下水道（阿武隈川上流流域下水道（県中処理区））の処理場として、昭和63年10月に郡山市、旧本宮町が供用開始され、その時の水処理能力日最大処理水量は16,200m<sup>3</sup>/日（土木施設32,400m<sup>3</sup>/日）、下水流入水量は約6,000m<sup>3</sup>/日でした。その後、平成4年10月に須賀川市、平成6年6月に鏡石町、平成7年4月に矢吹町が供用開始し、現在では、水処理能力日最大処理水量142,800 m<sup>3</sup>/日、下水流入水量約100,000 m<sup>3</sup>/日を処理しています。

平成14年度からは、県中・県南地域下水道汚泥処理事業として、脱水汚泥を約1/30に減量化する汚泥溶融施設（計画汚泥処理量70 t/日）が稼働しています。

また、平成25年9月からは、原発事故後場内で保管していた下水道汚泥を焼却する仮設焼却施設（流動床焼却炉 処理能力90 t/日）が稼働し、場内を埋め尽くしていた下水汚泥を詰めていた銀色のフレコン袋は今年5月になくなりました。なお、仮設焼却施設は、平成29年3月末完了の予定で解体撤去中です。少しずつではありますが、震災前の状態に戻りつつあります。お近くをお寄りの場合は、ぜひお越し下さい。

さて、当センターでは、10月21日、見学者対応中の火災を想定しての自衛消防訓練を、郡山広域消防日和田分署の協力を得ながら、施設維持管理受託業者3社を含む総勢48名で実施しました。センターには、点検・修繕・見学等で、不特定多数の方が来場している場合もあります。今回の訓練内容を検証し、今後の訓練や防災に活かしてまいります。



昭和63年供用開始時



平成28年10月現在 管理棟屋上よりSP棟から水処理施設をパノラマ撮影

### ◇編集後記

厳しい暑さも終わりを告げ、秋を駆け抜け、すっかり冬らしくなってきました。県内では初雪が降った地域もあり、まもなく冬本番を迎えますね。

さて、公社だよりも秋季号ということで、2016年も残すところあと2ヶ月を切ってしまいましたが、皆さまはやり残した事等ないでしょうか。私はたくさんやりたいことがありましたが、歳を重ねる毎に、最初の一歩を踏み出す足が重くなってしまい、なかなか行動に移せませんでした。そのうちやりたいことさえ考えなくなってしまいそうです…。来年は…と言わず今から、そんな自分を変えて行動に移せる人間になりたいと思います。

皆さまもぜひ、やり残したことがあれば取り組んでみてはいかがでしょうか。きっと、今からでも遅くはないはずです。

### 公益財団法人 福島県下水道公社

〒960-8041 福島市大町5番6号 日本生命福島ビル2F

TEL 024-524-3510(代) FAX 024-524-3513

Homepage:<http://www.fspc.or.jp>

E-mail:[somu@fspc.or.jp](mailto:somu@fspc.or.jp)



しずくちゃん



すいてくん

※本誌のお問い合わせについては、総務部総務課までお願いします。